

リスクアセスメント & 作業手順書

工事名称	2025年度 東海北陸自動車道 高山管内維持修繕業務		作成会社名	中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋㈱
工期	令和7年4月1日 ~ 令和8年3月31日		作成者	加藤 博也
作業名称	円型水路清掃(標識清掃・集水ます清掃含む)	作業手順書	作成年月日	令和4年5月6日
使用機械 使用設備	10t吸引車、高圧洗浄車両、散水車、2tD/T、移動用乗用車		改正年月日	令和6年7月12日
使用工具、機器	スコップ、ほうき、バール、インパクト(24)、ラチェットレンチ(24)、ハンマー、手押し台車		現場責任者	
			協力会社	会社名
保護具	ヘルメット、安全靴、脚絆、マスク、手袋、視認性の良い作業着		協力会社責任者	自筆サイン
材料			作業順序	
免許・資格等 (免)(技)(特)(準特)の区別を記す	自動車運転免許証(大型)		1	事前準備
	振動工具取扱作業安全衛生教育		2	出発～現場
作業人員	作業責任者 1人、作業員 8~10名、保安員 3人		3	円形水路・集水マス清掃
	合計 12~14名		4	標識清掃
作業手順	作業責任者(職長)	周知会実施日	5	後片付け
周知会	(役割を確認してこの作業に関わる全員が自筆サインする)		6	忘れ物、グレーチングの確認
参加者			7	現場離脱
サイン (記録)				

リスクの見積り	重大性			組み合わせ	リスクの評価	優先度又は実施担当者
	○:軽微 休業4日未満	△:重症 休業4日以上	×:極めて重大 死亡・障害を伴う			
可能 性	○:めったに発生しない (5年に1回程度)	○△	○×	○○	1:極めて小さい	関係者に対策の周知
	△:時々発生する (1年に1回程度)	△△	△×	○△、△△	2:かなり小さい	関係者に対策の指示
	×:かなり発生する (6ヶ月に1回程度)	×△	××	○×、△△、×△	3:中程度	職長が確認
				△×、×△	4:かなり大きい	工事担当責任者が確認
				××	5:極めて大きい	十分に訓練をした対策が必要

リスクレベル 5=十分に訓練をした対策が必要 4=工事担当責任者が確認 3=職長が確認 2=関係者に対策の指示 1=関係者に対策の周知

作業項目 (誰が)	手順 主なステップ	急所 作業のポイント	リスクの洗い出し (予想されるミス・ロス)	可能性	重大性	評価点	リスク レベル	ミス・ ロス	リスクの除去・低減のための 実施すべき事項の特定 (防止対策)
準備作業(全員)		健康状態の確認・免許・資格等の確認・光物(チョッキ・脚絆・ヘッドライト等)の充電確認・業務用プレートの確認、入場方法・入場箇所・車両番号・役割分担の確認・車両の始業前点検、工具の確認、積み込み荷の確認(落下・飛散対策)荷締めめの位置、荷台のネット・シート掛けの確認する。 工事車両幕がロープ及び養生テープで確実に固定されていることを確認。 担当者は施工計画段階でNEXCOと打合せした内容を作業員へ周知・報告すること。 車両出入庫の際に、運転手は車両の周囲(上下含む)を指差し、障害物が無い事を確認のうえ、出入庫する。							
現地確認(全員)	作業箇所確認	危険ポイントの確認							
事前準備	出発前の車両点検及び道具の準備	忘れ物がないよう全員で準備を行う	重量物を降ろしたり運ぶ際に腰を痛める	×	○	×○	3	安	重量物を運ぶ際は、2名以上で声を掛け合いながら運ぶ。
出発～現場	規制内への流入する	事前に規制責任者へ報告	規制内流入時、一般車が規制内へ誤進入し、保安員と接触する	○	×	○×	3	安	回転灯、ハザード、ウインカーの順でルールを守る
円形水路・集水マス清掃	先行部隊は水路内堆積物を解しながら、ゴミ拾い、マスの蓋明けを出口まで実施		開けたマスに乗り上げ、タイヤがパンクする	○	△	○△	2	安	開けたマスは監査路に上げる、際に寄せるなどして、乗り上げ防止に努める
上り勾配の場合	マス1区間ごとに高圧洗浄車を用いて堆積物をマスに集める		一般車が規制内へ誤進入し、作業員と接触する	○	×	○×	3	安	作業時は正対作業を行い一般車に留意する。緩衝車両を現場60m手前に配置すること。
	集めた堆積物を吸引車両により吸い上げる	1往復で綺麗にならない場合は繰り返す	空気や環境が悪いなかでの作業中、気分が悪くなる	△	△	△△	3	安	トンネル内は不衛生のため、マスク着用をする
	堆積物の除去が確認できたら次のマスへ進む	散水車は給水を行うまで、後方にて待機	トンネル内で暗いため、車両で作業員をはねる	○	×	○×	3	安	自発光チョッキの点灯、脚絆の装着確認
下り勾配の場合	勾配が下りの場合、トンネル出口にて吸引車を待機させ、清掃にて発生した汚水を汲み取る		一般車が規制内へ誤進入し、作業員と接触する	○	×	○×	3	安	作業時は正対作業を行い一般車に留意する。緩衝車両を現場60m手前に配置すること。
	勾配が下りの場合、散水車による放水作業を行い、堆積物を流水で除去する		空気や環境が悪いなかでの作業中、気分が悪くなる	△	△	△△	3	安	トンネル内は不衛生のため、マスク着用をする
	順次進行する放水作業に後続して、吸引車両が各々しないの堆積物を汲み取る		トンネル内で暗いため、車両で作業員をはねる	○	×	○×	3	安	自発光チョッキの点灯、脚絆の装着確認
共通	最後尾の班は各マスの蓋閉めと、落し物、忘れ物の確認、ゴミ拾いを順次行う		清掃対象物以外を放水作業で傷つける	○	△	○△	3	安	非常電話関連の設備、消火栓等は清掃対象に含まない
	マス蓋を戻す際ベルトは確実に2重にして戻すこと(ベルトが破損している場合は責任者へ報告)								
標識清掃	動力噴霧器による洗浄、固着した汚れの除去	責任者は作業漏れが無いかのチェック	水が飛散し、一般車へかかる	△	○	△○	2	安	水を扱う際は通行車両等への飛散が無いよう、圧の調整や保護を実施する。乱暴な放水を行わない。
	清掃終了後、完了した数量を確認する		除去した石や堆積物が下に転がり人や構造物に当たる	×	○	×○	3	安	除去物を置く場所の確認。本線側には置かないこと。
後片付け	忘れ物がないか、全員で最後に現場周りを確認	回収した汚泥は適切な処理方法(マニフェスト記載)にのっとり処分する							
忘れ物確認	作業終了後	責任者は規制内を巡回し忘れ物及びグレーチングの有無の確認を行う。その後規制撤去の連絡を行う	グレーチング、ボルトなどの閉め忘れ道具の置き忘れをする	×	○	×○	3	安	グレーチングやボルトナットの閉め忘れの確認 規制内に作業道具等の置き忘れがないか確認
現場離脱	現場から離脱する	安全に離脱する	一般車との接触する。	△	×	△×	4	安	保安員の合図で現場規制内から離脱する
			荷台から物を落とし、一般車に当たる	×	△	×△	2	安	現場離脱前に必ず荷台の点検・確認を行うこと。 工事車両幕を取外した場合は専用のケースに確実に格納し車内に保管する事